

あごら

MINI <52号>
1981年7月10日発行 ¥100 千45

●何でも言える●何でも書けるミニ雑誌<あごらミニ>

●小さな〈ひろば〉=AGORA・〈あごら〉

●あなたの声を待ってます。みんなでつくる<あごら>

近年のバイオテクノロジー(生物工学)をめぐる世界の動きとそのテンポの速さは、すさまじいものがあります。特に、今年に入ってからクロニンネズミ誕生のニュース、遺伝子組換えでできたインシュリンや成長ホルモン、ガンの特効薬といわれるインターフェロン等の実用化、コビー魚の大量生産のニュースなど、次々と報道されるニュースのテンポの速さに驚くとともに、SFの世界が現実になりつつあることを実感する毎日です。

生命の本体ともいえる、遺伝子の操作を中心とするバイオテクノロジーの急速な発展は、これまで人間には立ち入れなかった世界を開き、不可能を可能にするものとして学会、産業界を必要以上に過熱させています。遅れてといういわれられていた日本でも、通産省が研究を民間企業などに委託する形を含め、文字通り、国ぐるみの技術開発、実用化が始まり、世界的な成果も数々でていきます。しかし、この技術は、単に技術革新の延長ではなく、社会全体に影響を及ぼす底深い問題を内包していることを見落としてはなりません。

もちろん、遺伝子操作などの研究によって、今まで神秘のベールにかくれていた生命のしくみやその解明が飛躍的に進んだことは事実ですし、さらに研究が進めば、ガンや遺伝病も遺伝子レベルで治療・予防できる可能性もあるでしょう。老化や死すら克服できるかもしれない。しかもこの技術がもっている可能性は、これまでの近代科学技術によって出てきた行きづまり、例えば食糧問題やエネルギー問題、環境、公害問題、人口問題をかなりのところまで解決するのではないかという期待をもたせます。しかし、その反面、その大きな可能性は、

生命操作の時代に生きる市民として

世古一穂

生物災害、軍事利用等に始まるものろものろの大きな危険性や、われわれの生命観、生活観、哲学、倫理、思想などにも及ぶ幅広い問題を提起しているのです。また、治療技術への応用も、まもなく人間に使えるレベルに達するといわれていますが、昨秋にはカリフォルニア大学の研究者が、アメリカでは規制が厳しすぎる実験でなく、エルサルバドルとナボロで血液遺伝病の患者の骨髄細胞にこの技術を使つた人体実験を行ない、研究者の暴走の可能性がすでに現実のものとなった事件もありました。

率直にいうと、国家、企業、大学の研究者たちが、個々の細分化された領域内で安全で妥当と考えている技術も、人格をもつた人間の全体像として、あるいは地球の全生態系の問題として総合的に考えられていない現状には、危険と疑問を感じざるを得ないのです。

生物工学、遺伝子操作の問題といっても、なんとなくピンとこない、難しい問題、自分とは関係ない話と思われがちですが、われわれは好むと好まざるとにかかわらず、そのような「生命操作」の時代のまっただ中に生きているのです。今、われわれの生命自身が操作されるという事態の大きさにひとりひとりが気づき、身近な問題として考え始めることが必要です。それはまた、生命操作の時代に生きる市民の責任ではないでしょうか。

昨年九月、私は、私の友人数人とDNA問題研究会という市民グループを作りました。その中で、「生命」とは何か、「生命の尊厳」と科学技術の急速な進歩との関係、また、それが市民社会に及ぼす影響などを改めて考え、問い直していく視点の必要性を広く一般市民に提起していければと考えています。

今月のなかみ

<編集担当・あごら武蔵野>

表紙のことば 生命操作の時代に生きる市民として	世古一穂	1
戦争への道を許さないためにーむさしのからの報告	淡谷まりこ	2
隣から隣へ	山本かなえ	4
人の一生はなにをむすびつけるのか	曾田 藩子	4
ひとりきりでないお産はすばらしい	山口のり子	5
つながりとひろがり	丹羽 雅代	5
二十八歳、教職一年生(佐藤裕子)	ほか	6
△あごら仙台△いよいよ発足 ほか		7
お知らせ 女のつどい・女の講座		8

あごら連続講演会

『あごら』25号は「女と情報」をテーマに企画会議を重ねていますが、それに沿った講演会を三回にわたって行ないます。

内容は①情報公開法②国民総背番号制③情報化社会と女 の予定です。日時講師等の詳細は、事務局にお問い合わせを。

あごら可能性教室

次のクラスには、いま入れます。

〔編集入門〕

○全くの初歩から編集の概要までを共に学ぶクラス

○受講料 全10回で3千円(非会員は1万円)

○開講7月15日 毎週水曜日

○昼午後2-4時 夜6-8時

希望者はハガキに住所・連絡先電話番号、昼夜の別を書いてお申し込みを。

〔英会話月曜クラス〕

・中学生程度の實力で十分

・毎週月曜 夜6・15-7・30

・受講料 月額3千円

・英会話水曜クラス

・かなり聴け、話せる方

・毎週水曜 朝10・30-12・00

・受講料 毎回1千円

申し込みはどちらも左記へ

〒160東京都新宿区新宿1-9-6

あごら可能性教室

戦争への道を許さないために

むさしのからの報告

いま、私たちが迫られているもの

——平和を守るのは法ではない——法律家の立場から

法を支えるのは誰か

法律というものは、憲法をも含めて、きちんと決まっていって動かしがたいものというように普通は思いがちです。しかし、ある意味では法律ほどいい加減なものはない、ともいえるのです。憲法九条がいい例です。憲法九条は恒久平和主義をかかげた前文をうけて、「国権の発動たる戦争と武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」「陸海空軍その他の戦力はこれを保持しない」「国の交戦権はこれを認めない」と定めているにもかかわらず、自衛隊は存在し、強大化する一方です。世論調査で、その存在が国民感情に反さないという結論がでたこともあります。国の基本法たる憲法の、その憲法の重要な柱である九条でさえこんなふうになっています。

一体なぜこのように簡単に変わってしまったのでしょうか。実は法というものは強い者、権力をもつ者が、変えようと思えばなし崩し的に無限に変えうるものなのです。法律の条文なんか実際には何の役にも立たない。法律があるんだから大丈夫だろう、いくらなんだってひどい

事にはなるまい、法律が歯止めになってくれるだろう。皆さんは、そう思っているのでしょうか。

淡谷 まりこ

でも、私たち法律家が日常体験している事は、裁判所において法律の条文で定められている事が、ほとんど否定され、崩されていきつつある事実であり、しかも、それに対して法律家は実に無力であるということ。一審で負けたら二審へ、二審もダメだったら最高裁へ。でも残念ながら、上へ行けば行くほど悪い結果がでてくる。八海事件の被告は、「まだ最高裁がある」と上級審に望みを託しました。しかし今では、下級審で敗訴しても「まだ最高裁があるさ」とせせら笑うのは検察側なのです。

法律というものは、その時々々の状況や力関係でどんどん変わります。それは国民の意思や行動によって変わるものではない、守らうとする側の国民の強固な意思と不断の努力が必要であり、支える側の意思と力の背景がない限り、いくら立派な憲法や法律があってもなんの力も持て得ないのです。「法は、より強固な意思を持った者の側になびく」これは、法律家としては是非、皆さんに認識して頂

きたい、大事な事柄です。

ですから私たち法律家にできることは法律の置かれてある現状、客観的状況を冷静に把握し、分析して、それを国民の前に明らかにする。法が曲げられているとしたら、それがある意味では許している市民の側の責任を問うて行く、そういうことでしかないのではないかと、この頃思っています。

憲法の精神は……

日本国憲法には三つの柱があります。

○恒久平和主義——戦力保持の否定、交戦権の否定、戦争放棄

○民主主義——国政は国民の意思を代表するものによって運営されるという原則

○基本的人権の尊重——いついかなる場合においても尊重されなければならない人間としての基本的な権利の保障

この基本的人権は、実は明治憲法でも「臣民の権利及び義務」として保障されてきました。しかし、これらは天皇の大権を侵さない範囲のみで認められ、女性にとつては、無きに等しいものでした。

臣民の中に女性が含まれていなかったからです。天皇の臣民は天皇の兵隊になりえない女性は一入前の人格と認められていませんでした。参政権はもちろん、公務員にもほとんどなれず、弁護士・裁判官への道も閉ざされたままでした。また、妻は自分の財産ですら処分権を奪われ、逆に夫は妻の財産を自由に使用できたのです。

日本国憲法は第一章天皇、第二章戦争の放棄、第三章が基本的人権を定めた国民の権利及び義務となっており、憲法の三つの理念は密接に絡み合っています。つまり、どれか一つが侵蝕されると他の二つも崩れていくということです。

九条をめぐる

憲法九条の規定する平和主義が、いかに変わってしまったのか、平和主義が踏みにじられているかは、自衛隊が存在し、どんどん増強されつつあるという事、日米安保条約という軍事同盟がアメリカとの間でできている事、徴兵制や民間人の権利の制限を含む有事立法がもくろまれている、そういう種々の事柄からも明らかになると思います。一体いつ頃からそういう変化があらわれてきたのでしょうか。

憲法九条は、生まれてきた時はいろいろな解釈がありました。九条に反対する人たちがたくさんいたのも事実です。

憲法九条の「戦争放棄」とは一体どういうことか、これをめぐる法律上の争点、論点が二つあります。一つは、自衛隊の存在の合憲性をめぐっての争い。もう一つは、日米安保条約の合憲性の争い。この二つについての裁判所の判断の変遷は、憲法九条がなし崩し的に否定されていく過程であり、自衛隊の強大化とビビタリ一致する過程ともいえます。自衛隊の違憲性について争われた最初の裁判は、自衛隊の前身である警察予備



パネルディスカッション
淡谷さん(左から2人目)

隊の生まれた直後の一九五二年(昭和二十七年)、一部の社会党議員が「予備隊は軍隊であるから違憲である」と提訴したものです。これについて、裁判所は判断を下しませんでした。判断をしない、という判断をしたのです。裁判所は、具体的争いのある事柄に関して判断を下すのではなく、抽象的にある事柄に対し、またはある存在に対し、適法であるかどうか判断する権限は持っていない。予備隊によって直接被害を受けた、というような具体的事実によって初めて争点となりうる。だから単に、予備隊が違憲であるかどうかについて、裁判所は判断できないというのがその内容です。

次が、砂川事件における判決です。これは、安保条約に基く米軍の駐留が許されるかどうかについて争われたもので、第一審判決は、一九五九年(昭和三十三年)三月、日米安保条約改定の前年に出されました。判決を下した裁判長の名をとって、伊達判決と呼ばれるこの判決は、自衛隊をめぐる一連の訴訟の中で画期的とも言えるべき判決でした。

「憲法九条は、国の自衛権を否定はしていないが、侵略戦争はもちろん、自衛のための戦争も永久にこれを放棄し、そのための戦力の保持も許さないという趣旨である。米国の駐留軍は、極東の平和と安全のために必要であると米軍が判断

した時に出勤するのであり、わが国が直接関係のない武力紛争に巻き込まれる危険性がある。アメリカの駐留軍が、わが国の防衛のために使用される現実的可能性が大きい。従って、九条二項前段「戦力を永久に保持しない」という規定に抵触する」という明確な判断を下しました。これは、九条を素直に読めばそのまま出てくる解釈です。これに対し、検察側は飛躍上告(憲法問題が争点になっただけで高裁をとりこえて最高裁に直接上訴できる制度)します。最高裁は同年の十二月十六日に判決を下します(安保改定は翌年に迫っているため、年内に判断を下す必要があった)。

「日本国は、固有の自衛権をもっている(この点は伊達判決と同じ)。九条二項の定めていられる戦力が、自衛のための戦力の保持をも禁止したかどうかはさておいて、戦力とはわが国が主権的に指揮管理権を行使しうるわが国自衛の戦力をさすのであり、外国の駐留軍は戦力にあたらない。安保条約は、わが国の存立の基盤にきわめて重大な関係をもつ高度の統治性を有する行為であり、違憲か否かの法的判断権は、内閣及び国会の高度の政治的自由裁量判断と表裏をなす。従って、一見、極めて明白に違法無効のものでない限り、司法審査の対象外である」

裁判所は、日米安保条約は極めて政治的なものであるから判断できない、これを判断する事は、行政・立法に対する司法の優越をまねくという論理(統治行為論)です。結論として、こうした問題は最終的には主権を有する国民の政治的判断にゆだねられるべきである、と意味深長に述べています。これによると、日米安保条約は憲法九条には、とりあえず違反はしていないということになります(九条が自衛のための戦力の保持を認め

ているかどうかは、判断していません)。一九七三年(昭和四十八年)、札幌で保安林の解除をめぐる長沼ナイキ訴訟の判決がでます。一審判決は伊達判決と同じく「九条が保持を禁じている陸・海・空軍の軍事力とは、実力的戦闘行為を目的としている人的・物的手段としての組織体であり、これを放棄している事で、結果的に自衛戦争や制敵戦争も不可能にしている。戦力かどうかは、客観的に決めるべきである。事実上、自衛隊は違憲である」というものでした。

一九七六年(昭和五十一年)に、これに対する札幌高裁の控訴審判決がでますが、最高裁と同じ統治行為論で逃げています。この時も、自衛隊が現実にあるという事実を否定していません。消極的に承認したわけですが、自衛隊は、はっきりゴースラインがでるのは、一九七七年(昭和五十二年)二月、百里基地訴訟における水戸地裁の判決です。これまで最高裁や高裁が、九条に関してあえて回避していた点について、今までに比較的良心的に、法にのっとった判決を出していた一審の地裁が、最高裁の意向にそった、いや最も悪い形で判断を下したのでした。「九条が禁止しているのは、侵略のための戦力の保持であり、自衛のための戦力の保持は含まれていない」ここに至り、自衛隊が合法化され、積極的な承認が下されたわけでした。九条判断における判決の変遷こそ、裁判所が右傾化しつつあった事実を何よりも明白に物語っています。

今 平和を問う

民主主義——それは極めて日常的な言葉です。いろんなところに使われていますが、法的な意味での民主主義、それは物事には絶対的なものはない、価値観の

相対性を認める、という事が基本になります。世の中にはいろんな人がいて、種々の考え、言い分、欲求がある。どれが正しく、どれが誤りかを絶対的に決めつけることはできない。それを前提として、とりあえず世の中をまとめる手段として多数決をとろう。しかし、少数意見は尊重していこう。これが民主主義です。また、いくら少数であっても、決して奪ってはいけない権利、それが基本的人権です。この民主主義の基本理念・価値観の相対性を認めず、一党の価値観を絶対のものとし、国民に押しつけてくる自民党のあり方が、今日の社会でさまざまな歪みをもたらしている根本原因であると思います。

例えば、教科書を法律を変えてまでも国定教科書化しようとし、基本的人権の一つである表現の自由も、少数者の表現する権利は面倒だから無視してしまえ、とだんだん認めなくなりました。集会の権利、デモの権利、昔はどこでもデモはできました。それが、いつの間にか国会の周りから、デモ隊が消えてしまいました。最初、国会の周りのデモ申請が却下された時、弁護士は異議申し立てをしました。「国政の場たる国会に対し、国民が自分の意思を表現するデモを規制するのは違法である」と、その申し立てが通った事もありました。それがあつた日、理由もなしに却下される。そうした却下の積み重ねは、ついに、初めから国会に対するデモをあきらめてしまいうらになりました。また、靖国神社の国営化をはかり、参議院制度を改悪化し、参議院を衆議院化する事で、憲法の手を握る二院制をないがしろにしようとしているなど、憲法の有する理念を、多数党の論理によってねじ曲げようとしています。日本は戦後三十年、特にこの十年、十

五年は、あまりに平和で豊かであったといえるでしょう。その豊かさを守るために、私たち自身が保守化してしまっただけで、危険な右傾化に利用されてしまった。平和を守るとは何なのか、その中味をよく考える必要があります。平和を守ることが、豊かで安定した日常を守るといふ事であるならば、自民党の言う、または戦争をもくろむ人たちの言う論理と同じになります。豊かな生活を守るため、例えば、夫が毎日会社へ出かけ、夕方無事帰ってくる。子どもは学校へ行き、塾へ行き、うまくいったら一流大学から

隣から隣へ

私は、太平洋戦争突入の年に生まれ、敗戦のときが四歳、二年後には小学校入学というように、戦後の日本の復興とともに成長し、戦後の日本の歩みとともに人生を歩いてきました。その日本の戦後の歩みは、戦争の永久放棄をかかげた平和憲法を守り、平和を守りぬこうとする歩みではなく、右へ、右への、戦争へと進む歴史であったと思います。憲法が公布された三年後の昭和二十五年には、警察予備隊ができ、昭和二十九年には、それが自衛隊へと強化されるといふように。教育の面でも、昭和二十四年には教師のレッドパージが始まり、昭和二十五年には、第二次米使節団が日本に来て「教育を反共の道具に」と宣言しています。そういうかたちで、軍事大国へ教育、文化、報道、あらゆるものがじわじわと、傾いていっていった日本の右傾化の速度が、先回の衆参同時選挙の自民党の圧勝を機に、待ってましたとばかりに、早くなり始めました。今や、平和憲法も非核三原則もぬけが

一流会社へ、間違っても機動隊とゲバこっこんなかしらない、平穏で安定した生活。それだけを守ろうとする事は、自民党の論理にはまっています。

平和というのは、争いや対立がないことではない。争いや対立を、自らの痛みをかけて解決しようとする、個々人の意思と行動がない限り、決して守ることはできないと思います。一体、其の平和とは何なのか？ そのことをもう一度、私たちはじっくり考えて欲しいのです。

(5・16東村山集会講演より)

山本かなえ

らに等しい、このことは明白です。私たちが経済成長の波に酔い。うわべだけの幸せを求めて生活の華やかさを希求するそれは体制側の術中に陥ることであり、その結果、日本は再びアジアへの侵略者となっていたのです。

今、私たち日本人は、ひとりひとりが自分の生活を問い直し、そこから出発することなしには、どんな反戦運動も、体制側にとって痛苦とはならないでしょう。もう遅すぎるかもしれない。待っていて、政党も労働組合も動かない。

地域のなかで、隣りから隣りへ声をあげ、行動に移すことをやってゆかねば。隣りが恐くて戦争反対を言えなかつた、という佐多稲子さんの言葉をかみしめながら、ふつうの主婦が、女が、集会に結集しました。決して、日本が再びアジアへの侵略戦争をすることがないように。そして、日本のアジアへの経済侵略をも阻止するために。(5・16戦争への道を許さない市民の集い、実行委員長)

人の一生はなにをむすびつけるか

曾田 蕭子

「ご主人が亡くなられて、どのようにして立ち直られたのでしょうか」とM弁護士は言った。「仕事の参考にさせていだきたいのです」夫が、仕事場で事故死した直後、それにまつわるさまざまな問題をどうしたらいいかと、彼の事務所をたずねた時のことだった。

「私は今までも、どちらかというと救急車のサイレンがなったりすると、自分の死を重ねて考える方でした……。それに、人の死に方にもいろいろあると思います。夫は、自分の選んだ仕事の最中に死にました。人に惜しんでいただいて……。一方、今も戦火の中の死や……」と言った時、彼は「もう結構です、結構です。それだけわかっていらっしゃるならば」と両手で私を制して、しみじみとした口調で話してくれた。

「交通事故で死する人は、なんといっても働き盛りの男の人が多い。若い奥さんと幼児が残される。今まで夫中心の生活を疑わなかった奥さんは、いっぺんに経済的困難・過労・精神的困難のただ中に取り残されます。私は、仕事上多くのこのような人たちの相談にのってきましたが、最近、つくづく限界を感じているのです。それは、初めの二つの困難は、周りの人が一生懸命助けることもできますが、三つ目の精神的困難だけは、周りですんなりにしてあげても、本人がしゃんとしてくれなければどうにもならない。精神病院に入ったり出たり、出たとき子供を殺したりということが次から次へと起きていくのです」

生きられないほど、自分が壊れてしまふというのだろうか。

夫は丈夫で働き盛りだったから、私にとって彼の死は文字通り青天のへきれきだった。今度会ったら話そうと、いろんな印象のかけらを心のためにいた。「○さんの話面白かったわよ」「子供がね、こんなこと言ったの」

この世で、これらのことを彼に伝える機を永久に失ったと知った瞬間、私はやはり、自分が壊れそうな感覚に陥った。でも、それはいつときだったか。やあって、透明なエネルギーが静かに満ちてくるのを感じた。それが、私を今日まで生きさせた。「人はちっとも変わりなく元気ね」という……。

おびただしノット、原稿、本が残された。言葉の山びこが、私たちの心の中に残された。私たちというとき、家族だけを指しているのではない。血ではなく志でつながる家族、つまり友達のことを特に重大に考えている。一歩先、一歩先だけが、まるで霧の中のように見えてくる毎日の中で、私は友達に実にいるんな相談をし、助けてもらった。

大変ありがたき思いながら、気づいたことがある。「二人の友達」が、圧倒的に多いことである。もともと二人の友達だった人。もとは彼の友達、今は二人の友達、またその逆の人。今は二人の友達だけ、もとはどっちかの友達だったか思い出せないという人もある。彼の死後、初めて会った彼の友達のことも「私の友達なのかもしれない」と思ってしまう、そんな雰囲気になる。

残された山びこを追悼集の形で編みあ

わせようという話になり、数人が集まった。そこで不思議に思ったのは、初対面の人もあったのに、追悼集のイメージが実に気持ちよく明確に焦点をむすんだ、ということだった。

残された本のこと、これらのことに呼応している。二人の本が圧倒的に多い。「もと彼の本、今は二人が興味を持っている本」もある。私のサインのある本の

ひとりきりでないお産はすばらしい

長男の病院出産の経験に対して、納得いかないものを感じていたが、愚かにも「お産とはこんなものだろう」と思い込んでいた私は、ラマーズ法を使った三森助産院でのお産の記事を読んで、目から鱗が落ちるように、その時の疑問や納得しなかった点が何であつたかに気づいた。そして、薬や器械を使わずに自然なお産、産婦への精神的支えをまったく無視したやり方、麻酔などをされ、わけのわからないうちに医者によって産まされる病院でのお産のあり方は、実は女の側に主体的に産むという姿勢のないことも一因であると気づいた。

それで次の機会には、自然なお産、自分が産むお産を何が何でも経験したいと思いつけていた。そして待っていた妊婦を知り、早速三森さんを訪ねた。そしてそこでの学習会を四回、準備出産クラスに神田さんによる勉強会を五回、夫とともに重ね、妊婦体操も特に八か月過ぎてからは念入りに続けた。できるだけの準備はしたという満足感があつたせいか、今度は絶対に素晴らしいお産をすることができると信じていた。その日を待つことができた。むしろ楽しみにその日を待つことができた。

カバーには、彼だけのサインがしてあつたりする。「けしからん」私はそれを見ながらあたかも彼が生きているかのようにいつてみる。まあ仕方ないかな。今もつばら見ているのは彼だから。こんな風にして始まる想像力の旅は、その本がめぐって交わされた対話の歴史をよみがえらせる。こんないろいろなことがあるの透明なエネルギーの源なのかもしれない。

山口のり子

五月二十日の明け方、軽い陣痛が始まり、三森さん宅に駆けつけたが、本格的になって来たのはその日の夜半過ぎだった。移行期のつらい時期から、ずっと三森さんと神田さんと夫がついていてくれて腰をさすってくれたり、一緒に呼吸法をしてくれたりした。分娩準備室で、ひとりきりで一晩中、不安の中をただひたすら早く終わるのを待ちながら、痛みとベツドの上をのたうていたことだろう。二度目だから、早くて軽く済むかもしれないという私の予測に反して、全開大していきみ始めてから時間がかかり、いきめどもいきめども、子どもは出てこなかった。前日の朝から寝てかたなつたので、眠くて眠くて、陣痛の合間毎にスーと深い眠りに落ちていた。皆も疲れて、私がフーと息を抜くと同時に、一斉にガクッと力を抜き、一緒に短い眠りに落ちていたようだ。ついには頭がボーとして、いきむのも夢うつつという感じがして、足はつるし、ひどく疲れて力が入らないような気がしてきた頃、やっと子どもの頭が引っ込まなくなつた。皆に励まされて最後の力を振り絞つた。

二十一日の午前十時過ぎ、「これは大

きい、大きい！」という三森さんの声と共に息子が生まれた。実に四千四百グラムの超ジャンボ君。身長が五十八センチもあり、三森さんの所の新記録とか。子どもが出ておなかかスーと楽になった時には、産み落としたりという実感がわき上がり、三森さんをはじめ、立ち合ってくれた人々への感謝の気持ちと共に、熱いものが込み上げた。生まれるとすぐ新生児室に連れ去られ、決められた授乳時間にはのちよつとしか抱くことができなかった長男の時と違い、次男は生まれてすぐ私の横に寝かされ、まだ出ないおっぱいをしゃぶりながら眠った。新生児の無垢な膚はとろけるように柔らかで、心にしみるようだった。私は幾度も頻ずりしながら、まだ緊張している疲れた身体を休めた。

子どもがとて大きかったため、思わぬ程時間がかかり大変だった。立ち合つた夫は、思わず知らず大きな声で掛け声をかけたり、励ましたり、リラックスやいきみのリードをしてくれたらしい。後から三森さんに、リードの仕方が上手だったと言われて、夫も嬉しかったようだった。また、夫が立ち合つて良かったと言ってくれて、私もがんばった甲斐があつたし、夫とのつながりの輪をひとつ増やせたような気がして嬉しかった。

私の場合、最後には三森さんの所のスタッフも揃い、総勢六人に見守られ、励まされての出産だった。ひとりきりで苦しむのではなく、皆に支えられ、見守られたお産は素晴らしいと思う。幾人もの人に見守られて、この世に生まれ出て来たわが子も、良いお産のできた私も、しあわせだと思ふ。こういうお産がひとりでも多くの女たちに広がっていくことによって、病院出産のあり方も変わっていくにちがいない。

つながりとひろがり

丹羽 雅代

へあごら武蔵野Vって、どんな集まりですか？

「さあ、ちょっと一口では……、一応女の問題を考えようという場ですけど……」

どんな人がいるんですか？

「まあいろいろ。仕事持ってるのや失業者の人や、子持ちや学生さんいろいろ、あ、全員女です。男のお客さんときどきあるけど……」

何をやってるんですか？

「毎月例会をもつて、教育だの食べ物だの、遺伝子のことやら政治のことなど、今、自分が一番関心のあること、がんばってることなどを話したり、人にきいてもらつてミニ講演会をしたり、各々の催しの片棒をかつぎあつたり……。大切にしているのは、全員が同じ方向を向くのではなく、各々の向き方で重なり合える部分を作りたいというびやかな心で共感しあっていることなんです。あなたははどうですか？

「DNA問題研究会」は、生命操作の過熱化に不安を感じて集まった主婦、サラリーマン、学生など現在、百余名の会員をもつ市民グループです。偏った視点や利害に惑わされることなく、生命操作がもたらすあらゆる問題を幅広く公平に捉え、それをできるだけ判りやすく、みんなに知らせたいと考えています。詳細については、042312418373世古一穂まで

二十八歳、教職一年生

佐藤 裕子

子どもたちにとって、待ちに待った大運動会が去る六月七日(日)、初夏を思わせる太陽のもと催された。私にとっても、初めて担任した子どもたちの活躍する運動会であり、準備の忙しさの中にも、心はずむ気がした。

しかし、いざ当日になると、子どもたちの自主性にまかせながらも、「我クラスの子たちは、うまくやってくれるだろうか?」と始終気が気でならない。入場行進では、「あのワイワイガヤガヤさんたちは、乱れず、きちんと整列して行進してくれるだろうか?」とか、バラの花をかざした可愛い踊りでは、「あの

わんぱく君たちは、恥ずかしがらずに、間違わずに出来るだろうか?」とか、心によぎるのは、心配ばかりである。案の定、彼らは時々、右足と左足を間違っていたり、あわてて逆回りしたりしているのであるが、それでも、口を一字に閉じての懸命なその姿を目にした時――

「ああ教師になってよかった」「私は、何としても、あの子たちにとって、良き担任でありたい」と、熱い気持ちがこみ上げてきた。二十八歳にして、ようやく念願の教師になってこの数か月、幾度となく、こんな熱い感情が湧いた。

思えば、私は常に、何かを手探りで模索しながら生きてきたような気がする。自我を強く意識した思春期から、「自分を最大に生かせるもの」私の情熱をそそげるもの」を、求め続けてきたような気がする。二十歳で、歯科衛生士の仕事に

携ったとはいえ、何か自分に納得のゆかない日々は、空しかった。その後、仕事に失敗し、人間関係に思い、ひどい挫折感に襲われた。もし、その時、そんな自分に妥協して安易な道を選んだら、当然、教育に携る今の自分はなかっただろう。ましてや、同じ志を持つ夫と豪雪の土地に生活する今の自分などなかっただろう。こう思うところ、当時、まさに「人生の転換期に立たされていたのではなかったか」と強烈に回顧される。

私の求め続けていたものは――今、私の情熱の注げるあの子どもたち――だと言え。豊かな気持ちで、普遍的な人間愛を抱くことのできる人間になりたいと私は強く願っていたのだと思う。私は、彼らに対して人間愛を注ぐだろうし、彼らが、また豊かな心情の持主として成長することを願ってやまない。

なく、きちんと単独でやってもらいたいというのが私の実感でした。

（白石洋子）

◆6・13 杉並でも産ぶ声

5・2集会で出会った杉並の女たちが「杉並でも戦争を許さない女たちの会を発足しよう」と話し合い、その第1回の相談会を行なった。個人の立場で、地域に根づいた運動をと、33人の参加者全員が、なぜ戦争を許さないかを語りあった。とりあえず「よびかけ人へのお誘い」を出し、幅広く、よびかけ人を募ることにした。具体的な活動については、次回(7月4日)に相談することになっている。

◆6・4「戦争を許さない女たちの会」が反戦アピール

メンバー20人が、首相官邸を訪れ、(1)在日米軍基地からの核兵器の撤去(2)核兵器搭載の疑いのある米船艦の日本通過、寄港を拒否

(3)日米安保条約の廃棄

を申し入れた。そのあと渋谷駅頭で全員がマイクを握り、反戦の行動を訴えた。

7月21日(火)6時半から

「女と戦争」について語り合う会

6月12日の「あごら」24号東京地区合評会の席上、二つのテーマの内容をめぐって質問が出、北沢さんの「二つの戦争論」や、「女差別と南北問題」をもっと掘り下げようという話になりました。つくりっぱなしでなく、考え、行動する人あごらVと思います。合評会に参加しなかった方々も、ふるってご参加を。

◆報告◆ 各地に燃え上がった反戦の炎(その2)

◆6・13 横浜開港記念会館 五〇〇人

「戦争への道を許さない女たちの神奈川集会」は、昨年の12・7集会で出会った神奈川の女たちの呼びかけで開かれた。講師は北沢洋子さん。「世界はいま、たちあがる女たち」と題して、日本をめぐ

る国際情勢と、その中で私たちは何をなすべきかについて話された。「まず、軍事費増大に反対し、警察強化や民衆に対する強化などを含む『軍事化』に反対し、経済侵略に反対すること、反対の声は、戦争が起こってからは遅い。私たちのなすべきことは、平和、公害などさまざま

な反対運動を含めた民衆の平和運動に参加していくことである」と強調された。その後、マモコ・ザ・マイムの反戦パントマイムがあり、最後に、伊勢佐木町まで「平和の行進」をしして散会した。

◆6・19 世田谷 太子堂福祉会館一〇〇人

四月二十九日に発足した戦争への道を許さない女たちの世田谷集会のメインテーマは「地域に根ざした平和を」です。毎月いろいろな方の話を聞き、交流を深めようというところで、この日は革自連の派閥、狭間組を名乗る中山千夏議員と第一議員秘書の矢崎泰久氏の対談でした。

忙しい人気タレントのため、出席はわずか一時間でしたが満員盛況。彼女のナイスな目で観た議会報告は新聞等でも発表されていますが、男社会特有の形式主義、能率主義のエピソードには笑いを禁じ得ません。民主主義というのは、少数意見でもじっくりきかなければならぬから、本来はのろのろしたものであります。ところが、幾つもの議案に対して賛成、反対の多数決をする能率アップのために、立ったり坐ったりの順番にばかり気を取られている議員の表情には、彼女ならずとも国民として怒りを覚えます。中山氏には国会でもっとと暴れてほしいのですが、同時に講演会はコンビで

△あごろ仙台▽

いよいよ発足

昨秋、「あごろを読む会」として発足、慎重に足ぶみを続けていた仙台地区に、いよいよ△あごろ仙台▽が誕生することになりました。「看板を掲げることはこわいし、予期しなかった問題も起こるかもしれないけれど、看板を掲げることによって出会うかもしれない新しい方々との接点もたいせつにしていきたいと思えます」と、呼びかけ人の三船さん。東北の地に初めてともった△あごろ▽の灯に心からの声援を送りましょう。

〔連絡先〕〒982 仙台市青山一丁目13-14 三船 照子方

△あごろ仙台▽の決算は

六万二千円の赤字

事務局員の病氣入院などのため、のびのびになっていた八一年度第二回運営会議は、6月21日(日)10時から6時まで、九州・京都・名古屋・仙台等の拠点参加で行ないました。第一回の会議で持ち越したになっていた決算は、八〇年度に試行

1980年度決算	
〔収入の部〕	
会費収入	3,353,040
会費収入	4,421,163
広告収入	136,000
創造銀行運営費	223,725
可能性教室収入	324,500
可能物収場費	0
催受取会費	29,800
寄付収入	11,546
雑収	29,791
受取利息	2,116
収入計	8,431,681
(あごろ基金)	(295,000)
〔支出の部〕	
印刷費	4,302,664
材料集稿局	1,089,075
編集原稿	600,000
事務局	134,444
雑家	600,000
広告	119,700
運送	600,000
発信	124,800
通費	183,900
交用品	505,550
事消耗品	116,870
消圖書	29,970
新聞	19,890
新図	15,940
会費	14,105
支会	10,030
支会	3,600
支会	870
支会	44,200
支会	0
支会	0
支会	0
支会	0
支会	22,500
支出計	8,493,905
差引	△62,224
前期繰越欠損金	△5,661,830
次期繰越欠損金	△5,724,054
前期繰越高	1,327,200
期末繰越高	3,377,234
差引	2,050,034

「会費切れ」の方、

一日も早く送金を

新しい号がでるたびに、会員の数はふえてますが、古い会員の方でつい、忙しうせいか、会費の滞納の方がかなりあります。来年は、あごろも満十歳。さらなる発展のため、ご協力を。

育児時間の実態をお知らせ下さい

育児時間に関するパンフレット作成にとりかかっています。特に、労基法の規定以上の条件を勝ち取っている職場名をご存知の方、男も女も育児時間をノ連絡会03-460-5845(夜のみ)丹原まで連絡を。

中国の男性と文通を!

中国では、いま日本語熱が盛ん。日本語の勉強をかねて日本の事情を知りたいと、日本人ペンフレンドを求めている人が殺到しています。相手先には若い女性を求める人が圧倒的に多いのですが、その希望に応える日本女性が希少で、中国では行列待ちの状況とか。日中親善をかねて、

文通に応じる方、下記にご連絡を。東京都新宿区改代町2高城ビル206号パンダクラブ内中国に日本語教材を送る会(03-267-8888)入会金千五百円年会費千五百円。資料請求の場合は六十円切手を貼った封筒を同封のこと。

被爆のフィルムを買い戻そう!

10フィート映画運動のすすめ
アメリカで眠っている広島・長崎のカラーフィルムは八万五千フィート。これを買戻して上映しようと、1人10フィート1口3千円募金運動がすすめられています。申し込み先〒155東京都港区芝1-4-9子どもたちに世界に被爆の記録を贈る会(454-9875)

離婚を考える女たちの雑誌

HAND IN HAND

ニコニコ離婚講座20回を記念してA430ページの創刊号を発行。2号からはA54ページになりましたが、女の手から手へ、女一人で生きる勇気と知恵を分か合おうと。申し込み先は〒105東京都渋谷区神宮前3-33-2原宿ハイム202オフィス・ヨリック。402-7354

〔編集後記〕

またも、すっきりとはまとまらない武蔵野からの紙面、いかがでしたか。それぞれのがんばりを大切にしつつ心をよりよせあうことの難しさに、ジメジメお天気が拍車をかけます。だからこそ、はれやかに、のびやかに、しなやかに、とゆきたいのですが……。

〈女のつどい・女の講座〉

日	時	テ	マ	会	場
7月9日(木)	18:00~20:30	教科書裁判勝利をめざす中央総決起集会	問い合わせ先 03-265-7606	日本教育会館	
12日(日)	13:30~17:00	あごろ浦和・例会「あごろ24号合評会」		浦和コミュニティセンター	
	12:00~16:00	あんふぁんて・小学校の会「学校にはまかせておけない」		あんふぁんて事務局	03-329-6437
	13:00~16:00	反徴兵・反安保連絡センター月例会	女と徴兵制その2 (パネルディスカッション)	市ヶ谷YWCA	連絡先 03-355-3084
13日(月)	18:00~21:00	結婚の意味を問う継続討論「私だって(子どもの手が離れたら)外で働きたい」	参加費無料 連絡先 03-354-2543 藤村	渋谷勤労福祉会館	
	18:30~	あごろ札幌・例会		喫茶のあ	011-511-1377
15日(水)	時間未定	軍事問題研究会・軍事民論読書会	講師・林茂夫、デイヴィッド・フライシュマン	市ヶ谷YWCA	連絡先 03-291-9779
	18:00~20:00	可能性教室「編集入門」開講		あごろ読書室	03-354-9014
	18:30~21:00	日本の化粧品とアジアの女性たち <アジアの女たちの会'81春期女大大学>	参加費 500円 (連絡先 508-7070) (昼間のみ)	渋谷勤労福祉会館	
16日(木)		あごろ東海例会		名古屋市婦人会館	
18日(土)	13:30~16:30	婦人問題懇談会・例会「女子の雇用構造はどうなる」	参加費 300円 連絡先 03-508-8431	南青山会館	
	19:00~	あごろ武蔵野・例会「あごろミニ合評会」		かわら版事務所	0423-94-2902
	19:00~21:00	男も女も育児時間を/連絡会	連絡先 03-460-5845 丹原恒則 (夜のみ)	中野区新井老人会館	
19日(日)	13:00~17:00	女の会・例会「心とからだの解放をめざして」	連絡先0473-38-4861林和子	新宿文化センター	
	13:30~17:00	あごろ京都・定例会		シャンバラ	075-821-3579
21日(火)	18:30~	「女と戦争」について語り合う会		あごろ読書室	03-354-9014
22日(水)	18:30~	あごろ京王・例会「老人福祉を考える」		福井宅	03-308-7871
23日(木)	18:30~	あごろ北東京・例会「リブとして男とどう関わるか」		婦人協同法律事務所	03-985-3308
26日(日)	12:00~	あごろ柏・例会	テーマ未定	未定	
	12:30~	産婆の学校		ホビット村	03-331-3067
30日(木)	18:30~21:00	戦争を許さない杉並の女たちの学習会	連絡先 03-391-7427 長谷川	天沼出張所	
8月1日(土)	9:30~15:30	第27回日本母親大会 (分科会)		長野市内各会場	
	14:30~	あごろ運営会議		場所未定	
2日(日)	~18:00	あごろ運営会議		場所未定	
	9:00~15:30	第27回日本母親大会 (全体会)		長野市立体育館	
15日(土)	10:00~21:00	戦争への道を許さない女たちの反戦行動	マラソン演説会 連絡先 816-2057	渋谷ハチ公前	
	10:00~20:00	日本はこれでいいのか市民連合ティーチン	連絡先 352-2784	一ツ橋日本教育会館	
9月15日(火)	13:00~	民主と連帯の中野野外コンサート	入場無料	中野駅附近の広場 (雨天中野公会堂)	

各地のあごろ連絡先

旭川市神楽岡一条五丁目3	田代優子	0166655237	077811
旭川市			
札幌市中央区南25西ニユ一藻岩503	高橋芳恵	0115563317	0664
札幌市			
仙台市青山1-13	三船照子	0222291127	982
仙台市			
埼玉県浦和市南浦和2-19	国井マツ江	0488877336	806
埼玉県浦和市			
柏市豊四季台3-11	古賀節子	0471145116	277
柏市			
豊島区東池袋1-45	メゾン金子202	0385330811	700
豊島区			
小平市小川町1-7	丹羽雅代	0423431763	86
小平市			
調布市仙川町3-12	福井浅子	0333088771	182
調布市			
川崎市多摩区東生田2-12	森山方沼田千恵子	0444933390	794
川崎市			
愛知県愛知郡東郷町和合ヶ丘1-12	伊藤汎美	0561339922	386
愛知県			
京都市左京区北白川久保田町36	塚崎美和子	0757791144	606
京都市			
吹田市出口町30-20	北垣由民子	0638770916	564
吹田市			
福岡市西区笹丘2-4	小島豊子	0922117762	240
福岡市			